

令和 3 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
661456	
選定番号	B226

代表者 校園名： 大阪市立今里小学校
 校園長名： 山口 祐子
 電 話： 06-6981-8800
 事務職員名： 粟田 有加
 申請者 校園名： 大阪市立今里小学校
 職名・名前： 主務教諭 池内 一尊
 電 話： 06-6981-8800

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 2 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ		「G I G Aスクール構想」を想定した遠隔授業による新しい授業スタイル創造		
3	研究目的		<p>文部科学省が「G I G Aスクール構想」を掲げ、2023年度には児童一人一台にパソコンなどの端末が整備される予定である。そこで、「協働学習」におけるICT機器の効果的な活用方法に着目し遠隔での授業や交流を行う。</p> <p>○今里小学校と南港桜小学校が共同で、児童が主体的にまとめた情報を遠隔授業を通して発表・交流し、自分たちが収集した情報や、作成した資料と比較・検討することでより深い学びへとつなげる。</p> <p>○それぞれの学校が行った社会見学や学校行事等を交流することで、地域や学校の特徴の違いを知り、比較することで深い学びへとつなげる。</p> <p>○今里小学校と南港桜小学校の交流以外にも、それぞれの学校が他校や他地域等と遠隔で交流したことを交流することで、交流の範囲を大きく広げる。</p>		
4	取り組んだ研究内容		<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSゴシック 10pt イント）</p> <p>○遠隔授業のための機器・環境の整備（6月～1月）</p> <p>○遠隔授業の計画と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年社会・総合 公開授業研究会（南港桜小と今里小・9～10月） <p>「店で働く人々の仕事」で、地域ごとの特色を生かして調べたことを発表し合う授業づくりを通して、遠隔合同授業のための両校の機器環境整備と授業計画、実践をすすめた。オンライン会議ツールや協働学習アプリを活用した。校内授業研究会、研究発表会を実施した。</p> ・ 5年社会・総合 校内授業研究会（江別市東野幌小と今里小・10月） <p>「日本の食料生産」について、北海道と大阪の実態と取り組みについてそれがまとめ発表しあう授業づくりを通して、児童のプレゼンテーションや意見交流の方法について検討した。</p> ・ 6年総合 交流学習（園田学園女子大学と今里小・11月） <p>キャリア教育の一環として、大学生が小学生のころ描いていた将来の夢が現在はどうなっているのかを中心に話してもらうという内容で交流を実践した。</p> ・ 4年国語・総合 公開授業研究会（東中本小と今里小・1～2月） <p>「調べたことを報告しよう」の単元で、同じ中学校校下の東中本小学校の児童とグループ同士が意見交流できるようにオンライン会議ツールや協働学習アプリを活用し、遠隔合同授業を計画・実践した。交流時には自分たちが収集した情報や、作成した資料と比較・検討することでより深い学びへとつなげられる授業展開にした。公開授業・研究発表会を実施した。</p> ・ 3～6年総合 交流活動（ニュージーランド現地校と南港桜小・通年） <p>毎週1回、ニュージーランドの現地校とつないで、それぞれの国の文化や学校・地域の様子などを伝え合う活動を行った。児童は、相手の国の言語が十分わからなくても意欲をもって伝えようとすることができた。</p> ○オンライン授業の準備を整え、他校、他地域だけではなく、長期欠席児童と各教室とをつなぎ、遠隔授業を行った。（9月～） 		

		<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>
		<p>【見込まれる成果1】 他校との交流によるコミュニケーション能力の向上</p> <p>《検証方法》</p> <p>交流後の児童アンケートで、「他校との交流で考えを広げたり、深めたりできた」の項目を80%以上にする。「他校との交流で学んだことは何か」で具体的に記述する割合を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○交流後の児童アンケートで、「他校との交流で考えを広げたり、深めたりできた」の項目については肯定的な回答の児童がを90%近くいた。「他校との交流で学んだことは何か」という具体記述には、「教科書だけでなく本当に住んでいる人の意見が聞けて良かった。」「自分たちの住んでいるところに興味を持って聞いてくれて嬉しかった。今度は、相手の地域のこと教えて欲しい。」と交流をしたことで新たな気づきを得たり、更に学びを深めたい気持ちを高めることができた。</p>
		<p>【見込まれる成果2】 遠隔授業に対する教員の指導力向上</p> <p>《検証方法》</p> <p>実践後の教員アンケートで、「他校との交流で主体的対話的な学習に効果があった」の項目を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○授業実践後の教員アンケートで、「他校との交流で主体的対話的な学習に効果があった」の項目では、肯定的な回答が80%を上回った。実践中の児童は他校の意見に触れるだけでなく、相手意識を持って話し、普段より意欲的に学習に取り組む姿から、今回の遠隔交流授業に大変手ごたえを感じることができた。</p>
5	成果・課題	<p>【見込まれる成果3】</p> <p>《検証方法》</p> <p>〔検証結果と考察〕</p>
		<p>【見込まれる成果4】</p> <p>《検証方法》</p> <p>〔検証結果と考察〕</p>

研究コース

グループ研究B

選定番号

B226

代表校園

大阪市立今里小学校

校園長名

山口 祐子

	5	成果・課題	<p>【見込まれる成果5】</p> <p>《検証方法》</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>【見込まれる成果6】</p> <p>《検証方法》</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1人1台の活用授業に各学年で取り組むことができ、児童の情報活用能力、教員のICT活用指導力が向上した。 ○ 遠隔授業のための機器・オンライン環境を整備することができた。 ○ 遠隔授業を他校の教員とともに計画し、必要な打ち合わせを整理することができ、今後の多様な遠隔授業の可能性に見通しが持てた。 ○ 児童が様々な相手と交流する機会を持ったことで、多様な意見に触れることができ、深い学びへと結びついた。遠隔交流時には、目の前の相手ではなく、画面の向こう側にいる相手に伝えようとする意識が大変高まった。 ○ 他校、他地域との交流だけではなく、不登校児童や病気やけがによる長期欠席児童に対しての遠隔授業にも挑戦したこと、遠隔授業に対しての教員の指導力向上に結び付いた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1人1台活用授業の事例の開発、実践をさらに進める。 ○ 遠隔での児童同士のやりとりへの個別支援や評価の方法を工夫する。 ○ 教科学習の目標に即した交流相手を見つける難しさがある。 ○ 相手校との詳細な打ち合わせが必要であり、交流授業の時間や進度を合わせる難しさや、打ち合わせの時間の確保に難しさを感じた。また機器接続の不具合により、予定通りに進まない場面もあった。 ○ 遠隔教育への教職員の意識や授業力の向上は見られたが、今年度の実践をもとにさらに事例の改善・充実を図る必要がある。効率よく進めていくような打ち合わせの方法や計画の進め方を引き継いでいくことも必要である。 <p>《代表校園長の総評》</p> <p>GIGAスクール構想を想定して、他校、他地域の児童や大学生との遠隔授業に挑戦した。機器環境を整備し、今里小学校ではオンライン授業が実施しやすい「オンライン学習ルーム」を設置し、オンライン研究会、授業のライブ配信、オンライン学習参観などにも取り組むことができた。コロナ禍のため1人1台の学習者用端末が前倒しで整備されたが、緊急時のオンライン授業に備えるためだけではなく、離れた相手とも協働で学習する多様な授業スタイルやそのために必要な力を養うことについて研究することができた。児童、教員ともに意欲的に課題に取り組み、次年度以降にも継続発展させていきたいと考えている。</p>									
			<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td><td>令和 2 年 10 月 14 日</td><td>参加者数</td><td>約 23 名</td></tr> <tr> <td>場所</td><td colspan="3">今里小学校</td></tr> <tr> <td>備考</td><td colspan="3">17名来校・6名オンライン参加</td></tr> </table>	日程	令和 2 年 10 月 14 日	参加者数	約 23 名	場所	今里小学校			備考
日程	令和 2 年 10 月 14 日	参加者数	約 23 名									
場所	今里小学校											
備考	17名来校・6名オンライン参加											
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。										
		日程	令和 2 年 10 月 14 日									
		場所	今里小学校									
		備考	17名来校・6名オンライン参加									

令和 3 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
661456	
選定番号	B226

代表者 校園名： 大阪市立今里小学校
 校園長名： 山口 祐子
 電話： 06-6981-8800
 事務職員名： 粟田 有加
 申請者 校園名： 大阪市立今里小学校
 職名・名前： 主務教諭 池内 一尊
 電話： 06-6981-8800

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 経費執行使途報告書

◇ 「がんばる先生支援」として、経費を次のとおり報告します。

研究テーマ	「G I G Aスクール構想」を想定した 遠隔授業による新しい授業スタイル創造		
-------	--	--	--

費 目	金 額	備 考
8 旅費	5 普通旅費	
教育センターでの経費執行	計	①
7 報償費	1 報償金	71,160
10 需用費	1 消耗品費	334,036
	4 印刷製本費	
11 役務費	1 通信運搬費	
	5 筆耕翻訳料	
13 使用料及賃借料	1 使用料	
17 備品購入費	2 校用器具費	194,700
	3 図書購入費	
18 負担金、補助金及交付金	5 会費	
学校での経費執行	計	599,896 ②
合 計		599,896 ①+②

研究活動にあたって、どのような目的で、どのような物品を購入したのか、主なものを記述すること。また、経費執行における申請時からの主な変更点を記述すること。

遠隔授業の際、映像を配信するためのビデオキャプチャー、HDMI ケーブル、三脚、Webカメラ、授業用パソコンおよび音声配信のための超指向性マイク、ヘッドセット（マイク付きヘッドフォン）を購入した。

内訳明細

(R02 様式 5-2)

研究コース

グループ研究B

選定番号

B226

代表校園

大阪市立今里小学校

校園長名

山口 祐子

費目	内容	数量	単価	金額	実施月
8 - 5 普通旅費					
	費目小計				
7 - 1 報償金	研究会講師（大学教授）	3	23,720	71,160	
	費目小計			71,160	
10 - 1 消耗品費	HDMIケーブル10m	6	15,980	95,880	
	キャプチャーデバイス	6	18,000	108,000	
	超指向性マイク	4	8,800	35,200	
	マイク付きWebカメラ	3	10,695	32,085	
	ヘッドセット	20	2,145	42,900	
	三脚	3	6,657	19,971	
	費目小計			334,036	
10 - 4 印刷製本費					
	費目小計				
11 - 1 通信運搬費					
	費目小計				
11 - 5 筆耕翻訳料					
	費目小計				
13 - 1 使用料					
	費目小計				
17 - 2 校用器具費	授業用PC	1	194,700	194,700	
	費目小計			194,700	
17 - 3 図書購入費					
	費目小計				
18 - 5 会費					
	費目小計				
	合計			599,896	